

# JA愛知北水田作協議会(愛知県犬山市)

## 1 産地の概要

- <対象地域> 犬山市  
<対象品目> 水稲  
<産地の現状・課題>

本地域は、水稲作付面積は392ha(作物統計、令和3年産)で、水田作担い手への農地の集積が進んでいる。

課題としては、①水田からの温室効果ガス(メタンガス)排出量を削減すること、②近年、斑点米カメムシ類等の発生が多い傾向にあり、病害虫防除に労力を費やしていること、③日々の水管理に多大な労力を費やしていること、の3点が挙げられる。

## 2 検討体制

<JA愛知北水田作協議会構成員と役割>

- ・愛知北農業協同組合(事務局)  
事業実施手続き、農業者との調整、実証圃の管理、技術指導
- ・実証農家(3戸)  
実証圃の管理、技術の実証
- ・愛知県(農業総合試験場、尾張農林水産事務所)  
事業のコーディネート、技術指導、栽培マニュアル及び産地戦略のとりまとめ
- ・犬山市  
産地戦略のとりまとめサポート等



実証圃でのドローン防除作業



検討会の様子

## 3 グリーンな栽培体系

<環境にやさしい栽培技術>

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
温室効果ガスの削減	中干し 耕起	<取り入れる技術> ・中干しの延長 ・秋耕
		<見込まれる効果> メタンガス排出量約3割減 メタンガス排出量約5割減

<省力化に資する技術>

作業段階	新たに取り入れる技術
病害虫防除	<取り入れる技術> ・ドローン
	<見込まれる効果> 従来の乗用管理機による作業時間と比べ約7割減

## 4 活動内容及び今後の展開

<活動内容>

温室効果ガス削減技術については①中干しの延長及び②秋耕技術を検討し、省力化技術については③斑点米カメムシ類防除作業でのドローンの活用及び④水位センサーの活用による水管理回数の削減を検討した。①～③については当地域での適応性が認められたが、④については省力効果は認められたものの、導入は作業場から遠いほ場での普及に留まってしまうこと等の観点から、現段階での導入は困難と判断された。

<今後の展開>

温室効果ガス削減については①中干しの延長及び②秋耕技術の導入を、省力化技術については③ドローンを活用した防除技術の導入を推進することで、環境にやさしい栽培と先端技術等を活用した省力化を実現する。